

5 「歯科保健指導」における口腔内観察実習の有用性

小野真奈美, 本間和代, 渡邊美幸
明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 口腔内観察, 歯科保健指導, 動機づけ, 学習意欲の向上

はじめに

口腔の健康の維持・増進と全身の健康は深く関わっていると言われており, 歯科保健指導は重要な役割を担っている。生活行動を望ましい方向へ導き, QOLを向上させるための歯科保健指導には, 専門的な知識・技術の他, 問題発見・解決能力やコミュニケーション能力, カウンセリング技法など総合力が必要となる。学生に「歯科保健指導」科目に興味をもたせ, 学習意欲の向上を図ることを目的に家族の口腔内観察実習を行った。

対象および方法

対象は歯科衛生士学科2年生99名, そのうち課題レポートを提出した91名とした。

方法は, 夏期休暇中に, 各種診査器具を使用して①歯牙の状態 ②ポケット測定 ③出血の有無 ④歯牙動揺度の診査を行い, プラークコントロールレコード(PCR)とDMF歯率を算出して, 診査結果に基づいた歯科保健指導を実施し結果をまとめさせた。

結果および考察

学生が実施した対象者の人数は, 2人実施した者が39%と最も多く, 続柄では母が82%と最多で, 次いで父が66%であった。また, 家族の協力度は, 54.8%の者が大変協力的であり, 34.2%の者がやや協力的で, 3.4%の者は診査拒否と概ね協力が得られたが, 今後は, 診査拒否者に対しては, 依頼の方法等の指導が必要であると思われる。診査結果は図1~3に示す通りで, 歯肉出血は祖父以外の続柄で半数の者にみられ, ほぼ全ての続柄で歯肉に炎症があることが示された。歯牙動揺度の有無は, 祖母で半数にみられ, 5ミリ以上の歯周ポケットは祖父で半数の者にみられた。DMF歯率は, 10%以下~81%代以上までばらつきがあり, PCRも続柄に関係なく概ね11~50%代の者が多かった。以上よ

り, 年齢とう蝕経験や歯周病罹患率が比例しない結果であった。

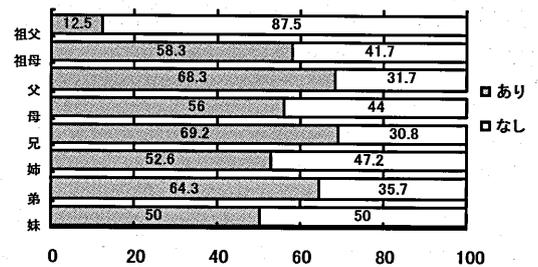


図1 歯肉出血の有無

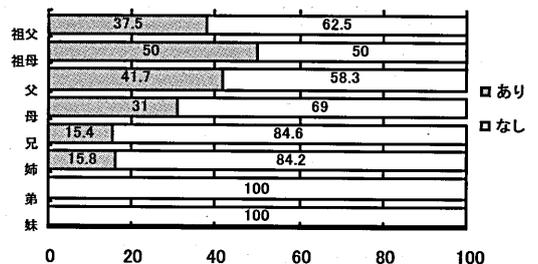


図2 歯牙動揺度の有無

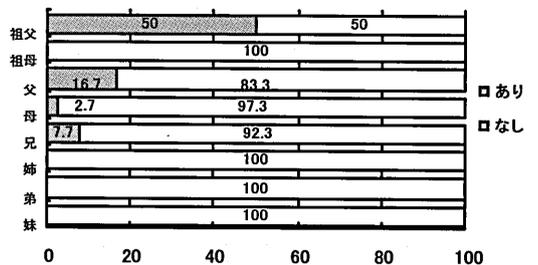


図3 5ミリ以上の歯周ポケットの有無

まとめ

家族の口腔内状況を把握したことで, 学生は多くのことに気づき歯科保健指導に興味をもち, 学習意欲の向上に繋がったと思われることから, 本実習は歯科保健指導科目の動機づけとして有用であったと考える。